

令和4年度第8回市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える課題

【日 時】令和4年8月1日（月） 18時30分 ～ 19時30分
【場 所】小羽山ふれあいセンター
【出席者】○篠崎市長 ○（地区代表者5名） 小羽山地区コミュニティ推進協議会 会長 : 婦木 澄男 小羽山地区自治会連合会 会長 : 伊藤 哲夫 小羽山地区社会福祉協議会 会長 : 小泓 良雄 小羽山地区コミュニティ推進協議会 副会長 : 惠本 元 小羽山小学校PTA 会長 : 齋藤 亮 ○総合政策部 ○事務局（広報広聴課、小羽山ふれあいセンター、地域支援員）
【概 要】1 開会 2 出席者紹介 3 参加者と市長との意見交換 4 閉会
【意見交換・懇談】
○ふれあいセンターの指定管理者制度について 【コミュニティ推進協議会会長】 ・過去に指定管理者制度の話があったが、ふれあいセンターの運営をコミュニティ又は民間に委託する考えはあるか。 【市長】 ・ふれあいセンターは、各地域におけるコミュニティ活動の拠点であり、地域団体の活動支援や広報等の配布手配、災害時の避難所従事等、地域に最も身近で重要な役割を担っていることから、市直営での運営を考えている。 ・ふれあいセンターの運営を地域で実施する希望があれば、指定管理者制度を検討していく。
○地域活動の人材確保について 【自治会連合会会長】 ・小羽山地区は人口減少と共に高齢化率も37.2%なり、その影響は地域コミュニティの存続にまで及んでいる。人材確保は小羽山地区だけでなく市内全般に言えるのではないか。市ではどのように受け止め、対応を考えているのか。

【コミュニティ推進協議会副会長】

- ・定年退職後は地域活動をすることを義務化してはどうか。

【市長】

- ・自治会をはじめとする地域活動の担い手の固定化・不足については、令和3年度の市政懇談会でも課題として挙げられるなど、各地区共通の課題として認識している。
- ・若い世代が多忙で、地域活動の入り口であるPTAや子ども会活動に接する機会が減っている。
- ・定年延長により、地域活動開始のタイミングや活動期間を失するケースが増えている。
- ・働く世代の地域活動への関心を高め、「ノー残業デー」のように参加を促すために「地域活動の日」の実施を目指している。
- ・「地域活動の日」の仕組みの構築・実施にあたっては、共創のまちづくりの理念のもと、地域、企業・事業所、学校、各種団体、NPO法人等、皆様と一緒に十分な協議をしながら、進めていきたい。
- ・定年退職後もボランティアしやすい仕組みは考えていきたい。

○高齢者の見守りについて

【社会福祉協議会会長】

- ・小羽山は高齢化率が高い。高齢者は外に出たがらず、訪問を嫌う方も多い。特に県営住宅の3階より上の方は様子が分からないという課題がある。
- ・認知症の方の家族へのアプローチ方法も地域の大きな課題である。認知症に理解が得られる社会になるような広報活動をしてほしい。

【市長】

- ・市営住宅はシルバーリフォーム改修事業を進めている。
- ・認知症になってもできる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、「チームオレンジ」を構築し、早期の相談や家族への支援体制を強化している。ケアマネージャー、社会福祉士、保健師などが中心となり支援を行っているので、気軽に連絡してほしい。

○地域内交通について

【コミュニティ推進協議会副会長】

- ・高齢化率が高く、坂があったり、スーパー「大和」がなくなったり、立地条件が良くない。交通手段確保のため、地区にワンボックスカーを配置してもらえないか。また、坂を利用した交通手段を考えていただけないか。

【市長】

- ・ワンボックスカーの配置の件については、市老連からもご提案があり、実証的に配置する等を検討中である。ただ、バスやタクシーの代替利用は民業圧迫になるので、コミュニティ活動に限定している。

- ・老人福祉施設所有の車による送迎も予定していたが、コロナ禍で一般住民との同乗が困難になり中止となった。
- ・コミュニティタクシーは地域からの要望に応じ開始するも、利用率が伸びないケースがある。特に、小羽山地区はバス停が近いので、どの程度利用があるのか懸念がある。
- ・自宅からバス停までの「ラスト1マイル」に、ニューモビリティを導入するような次世代型のまちづくりにも取り組んでいる。
- ・トヨタ・コニック・プロ株式会社の協力のもと、10月以降にときわ公園でニューモビリティの一般利用を予定している。ただし、道交法及び小羽山のように勾配があると使えないという問題がある。

○大和小羽山店閉店に伴う対応と買物支援について

【小羽山小学校 PTA 会長】

- ・昨年、車のない方や主に高齢者のライフラインとなっていた「大和」が閉店した。
- ・「大和」跡地に商業施設や複合施設の誘致を検討してほしい。
- ・また、「大和」跡地北側駐車場、「大和」跡地、蛇瀬池及び中央公園の一体的な活用も検討してほしい。

【社会福祉協議会会長】

- ・移動販売車は週3回来ているが、もっと頻繁に来てほしい。

【市長】

- ・「大和」跡地は私有地なので、直ぐに何かを建てることは困難だと思う。地域から要望があれば検討を始めるが、市が介入し誘致するには、それなりの理由がいて考えている。「大和」跡地利用について「大和」に確認し、地域にお知らせしたい。
- ・また、「大和」跡地北側駐車場は、市に返却後に売却する方向であり、現時点では活用の予定はない。中央公園の改良整備等は考えていない。
- ・「大和」閉店に伴い、地域と地域支援員とで買物支援策について意見交換を行った。コープやまぐちは、移動販売や買物送迎を展開しており、丸喜も令和4年秋頃から移動販売開始の意向を確認している。

○中学校の部活動について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・中学校の部活動を民間や地域に任せる予定があるか。

【市長】

- ・中学校の部活動は地域へ移行する旨、国からの提言より示されている。8月から教育委員会が地域のスポーツ団体との協議会を立ち上げ、検討をすすめていく予定である。

○市内バスツアーについて

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・宇部市の名所・旧跡を巡るバスツアーを実施してはどうか。

【市長】

- ・観光コンベンション協会に検討していただく。

○子どもの貧困対策について

【小羽山小学校 PTA 会長】

- ・「こども食堂」を市で運営していく考えはあるか。

【市長】

- ・「こども食堂」はボランティアで運営することが国の方針である。市では立上げ時の支援をしている。
- ・子どもの小さな SOS を見付けて対応することが大きな課題と考えており、「貧困対策ネットワーク」を作り、どのような対策が必要か現状把握に努めている。
- ・「第三の居場所」作りを市内各地に展開したいと考えている。今年、上宇部地区では従来の中学生に加え、小学生も対象にした学習支援を開始したところである。

○デパートの誘致について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・市内にデパートを誘致できないか。

【市長】

- ・井筒屋跡地への進出について民間事業者を確認したところ、民間だけでの進出は難しいが、人が集まる公共サービスとの併設であれば、進出したいとの回答をいただいた。

○コロナ禍における高齢者の外出について

【コミュニティ推進協議会 副会長】

- ・コロナ禍で高齢者の外出が制限され、ひきこもりや認知症が進んでいる。

【市長】

- ・身近な所に出かける仕組みを考えているところである。
- ・健康遊具を公園に設置して、高齢者を対象にした健康教室などを実施する予定である。